

災害直後には、電気やガス、水道などのライフラインが止まる場合があります。どのように備え、生活の工夫をしていけばよいのでしょうか。

考えてみよう 震災直後からライフラインが止まり、困ったことを考えてみましょう。

電気がなくて暗くて寒い

電車が動かなくて帰れない

水がなくて使う食器がなくなったトイレも困った

携帯電話が繋がらない

ガソリンが手に入らなくて車が動かない

知っておこう 下の表は、東日本大震災が起きた3月11日からの宮城県内ライフラインの復旧状況を表したものです。

宮城県内では、3月11日に96%の家(約1,370,000戸)が停電しました。

東日本大震災の被害が大きかったことがわかります。

宮城県内のライフライン復旧状況

2011	3.11	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
電気		6月18日復旧									
水道		9月3日復旧									
ガス		12月11日復旧									

※ 津波被災地分は含まれていません。

参考：宮城県「東日本大震災—宮城県の発災後1年間の災害対応の記録とその検証—」

ライフラインが止まったときの生活の工夫

工夫1 お風呂の水でトイレを流そう
(学校ではプールの水も使えるね)

工夫2 ラップフィルムをしいて水洗いをなくそう

工夫3 ラジオから情報を得よう

工夫4 懐中電灯を準備しておこう
(ロウソクでもいいよ)

工夫5 日ごろから非常持ち出し袋を準備しておこう

話し合い ライフラインが止まったときに備えて、準備しておくものや身近なものでどのような工夫ができるか話し合みましょう。

ふだん使っているものを工夫すればいいんだね。

防災知識 身近なもので防寒対策

東日本大震災後、夜間、たいへん冷え込んだ日があり、電気が使えないため、防寒対策に苦労しました。避難所では、新聞紙を体にまいて寒さをしのいだという事例がありました。

新聞紙は、体温を逃がさないようにするのに効果的です。



写真提供：日本ボーイスカウト岐阜県連盟